

★ アンケート回収数は、児童79名、保護者65名、教職員11名である。
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答の場合もあるため、評価(A～D)は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。
 ★ 平均、総合評価は、比較しやすいように4点を最高として示している。 《平均》 (4点×Aの回答数 + 3点×Bの回答数 …) ÷ 回答総数

1 学び【知育】 (A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
1	先生は、一人一人の子どもに対して個に応じた授業を行っている。	児童 保護者 教職員	49 24 2	19 28 9	7 11 0	3 2 0	3.4 3.1 3.2	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス十数名という利点を生かして、一人一人に対し丁寧に指導できる恵まれた環境にある。また、必要に応じて、特別支援員や特別支援コーディネーター他が指導に当たるようにもしている。今後、更に指導法を工夫し、この好条件を生かしていく必要を感じている。 ○ 校内研究テーマに算数を取り上げ、児童が「分かる・できる」まで教えることを心掛けている。各種の学力状況調査においても概ね全国平均を達成することができている。 ○ 間違い等のやり直しは、丁寧に取り組んでいる方であると考えている。それは、児童の回答がほぼAまたはBとなったことから言ってもよいと思う。ただ、その説明ややり直しをしたことが、学習内容の定着までつながっているかどうかについて、CRT検査の分析が必要と考えている。 ○ 読書に関しては「読書貯金」「市の巡回文庫」「読み聞かせ」等の手立てを行い、読書に親しませるように工夫してきた。大変多くの本を読んだ児童もいる一方、あまり読んでない児童もおり個人差がある状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数といえども平等に授業を行うことは難しいと思います。理解力の弱い子の指導はもとより良い子への向上も配慮して欲しいと思う。 ○ 読書に関心を、もたせるために週一回程度で希望者に感想を発表させてはどうか。 ○ 読書は大切です。読書貯金等で定着推進が図られていることは大変良いことだと思います。児童の個人差もあり、大変でしょうが内容等を検討し、個々の指導も必要ではないかと感じます。 ○ 読書の記録を見せてもらおうと、一日に数冊も読んでいるようだが、内容をきちんと理解して読めているのか。
2	先生は、授業を工夫し、児童に分かりやすい授業をしようとしている。	児童 保護者 教職員	42 27 7	24 26 3	9 10 1	4 2 0	3.3 3.2 3.5			
3	先生は、プリントなどの間違いの多かった問題の説明をしたりやり直しをさせたりして、理解させようとしている。	児童 保護者 教職員	50 32 4	20 24 7	5 8 0	3 1 0	3.5 3.3 3.4			
4	先生は、本に親しみ、読書習慣を定着させるための、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	46 31 3	19 25 6	5 7 2	8 2 0	3.3 3.3 3.1			

2 笑顔【徳育】

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
5	学校は、元気なあいさつや正しい言葉づかいについて適切に指導している。	児童 保護者 教職員	54 35 4	20 22 6	4 6 1	1 2 0	3.6 3.4 3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや言葉づかいについては、折を見て指導を繰り返し行っている。平均を見る限りでは児童も保護者も高い点を取っているが、保護者の自由記述の欄には、十分とは言えないというものもあり、今後も継続的な指導が必要と考えている。 ○ 異学年集団のメンバーが集まり活動する事については、児童はよくできていると回答しているものの、保護者も教師ももう一步と評価している。具体的に行動している姿が見えにくい事も原因と思われる。ただ、今後上学年児童が下学年児童を思いやる行動が見られたらすぐに褒め、その態度を伸ばしていこうと教師間で共通理解した。 ○ 登下校については本年度も日向市内で多数の不審者情報があり、その都度「安心・安全メール」で保護者に呼びかけるとともに、児童へ指導を行ってきた。また、地域にも協力的な方が多数おり助かっているところである。今後も事件・事故がないよう、最大限注意を払っていききたい。 ○ いじめや差別のない温かい人間関係作りについての成績が、教師・保護者とも一番低かった。この内容は人権意識の高揚とも関係しており、今後今まで以上に、児童の人間関係に心を砕く必要があると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の集団登校は揃って大きな声で「おはようございます。」と声に元気をもらってます。それに比べ「こんにちは。」と言う挨拶は自らは乏しい気がします。 ○ 集団登校に学校まで一緒に折り返し、みんな無口で縦一列に歩いています。いつも会話はしないのですか。と聞いたところ「はい。」と返ってきました。少し寂しい気がしました。一列だと話にくいこともあるのかな。と思いました。 ○ 顔見知りには挨拶をしてもらっています。通学児童にはこちらから声掛けをして挨拶を返してもらっています。 ○ 児童達はその日によって言動が異なることが多くて、ちょっとした行動が複雑な人間関係となりじめ又暴力となることも考えられます。十分注意しておくことだと思います。 ○ 登校時は集団登校で大声で元気な挨拶があります。日常生活においても元気な挨拶が飛び交う家庭・地域であって欲しいと思います。 ○ 学習発表会の時感じたことですが、6年生の服装で7名の男子のうち6名の子供が同じ上着(スポーツ少年団用)でした。とても違和感がありました。先生達がどう感じたか分かりませんが、私は関係する者であれば「一人ぼっち」は絶対やってはいけない行為だと思います。
6	先生は、集団登校や縦割り清掃の時、他の児童を気遣うように働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	59 25 2	17 32 9	2 4 0	1 4 0	3.7 3.2 3.2			
7	学校は、安全な登下校や危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児童 保護者 教職員	62 35 6	11 25 5	3 3 0	3 2 0	3.7 3.4 3.5			
8	学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。	児童 保護者 教職員	48 22 2	23 28 8	5 11 1	3 4 0	3.5 3.0 3.1			

3 元 気【体育・食育】

日向市立寺迫小学(NO. 2)

	評 価 項 目	評 価							学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント
		対 象	A	B	C	D	平均	総評		
9	学校は、身だしなみの意識付けや、歯みがき指導について、積極的に取り組んでいる。	児 童 保護者 教職員	53 34 2	19 27 9	6 4 0	1 0 0	3.6 3.5 3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 養護教諭を中心に、身だしなみや歯磨き指導について指導を行ってきた。児童にはそれなりに意識付いてきていると感じられる。今後保護者と連携を図りながら更に進めていくことが大切であると感じている。 ○ むし歯の治療については昨年度が100%完治だったので、本年度も同じように100%を目指している。現在のところまだそれに届いていないので、呼びかけを継続していきたい。 ○ 弁当の日については2学期以降、学年の実態等にあわせ、遠足の日に自分にあった内容で取り組むことを推奨してきた。概ね一人一人よく取り組んでいると感じている。日々の給食時間においても献立紹介の折に食品の知識を紹介してきた。今後更に意識が高まるようにしていきたいと思っている。 ○ 生活リズムについては、ほぼどの児童もできているものの、一部、長時間、ゲームやユーチューブ等をしている児童がおり、就寝時間が遅くなっている。家庭内のことでもあり、保護者と連携しながら取り組む必要性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自宅におけるテレビ、ゲーム、宅習の時間の過ごし方の割合はどうでしょうか。 ○ 心身共に健全な発達には、食生活も大きな要因であると思う。歯の健康は特に大切であり、歯磨き励行の徹底だと思ふ。 ○ 健康作りには生活リズムを定着させるよう家庭との連携が重要と思う。
10	学校は、歯の健康づくりをめざし、むし歯の治療の奨励について、積極的に取り組んでいる。	児 童 保護者 教職員	56 37 2	15 25 9	2 3 0	6 0 0	3.5 3.5 3.2			
11	学校は、弁当の日を設けることで児童の食に関する興味・関心を高めようとしている。	児 童 保護者 教職員	59 35 3	12 28 7	2 2 1	4 0 0	3.5 3.5 3.2			
12	学校は、生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、適切な手立てをとり、働きかけを行っている。	児 童 保護者 教職員	40 27 3	28 32 8	6 6 0	4 0 0	3.3 3.3 3.3			

4 連携・学校全般

	評 価 項 目	評 価							学校の自己評価のコメント	学校評価関係者によるコメント
		対 象	A	B	C	D	平均	総評		
13	学校は、ふるさと(地域)のひと(人材)やもの(素材)を生かしたふれあいや体験活動を積極的に行っている。	児 童 保護者 教職員	61 41 2	12 23 9	3 1 0	3 0 0	3.7 3.6 3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度も地域とのふれあい活動や体験活動を積極的に行うことができた。また、地域の大人が学校に大変協力的であった。これらの活動を通して、児童の感受性が豊かになるとともに、ふるさとへの愛着を感じるようになると感じている。 ○ 短歌については、登校後の朗詠、短歌づくり、校内かるた大会等折に触れて行っており、児童の中に定着していると言える。また、本年度も市の牧水かるた大会で団体戦4位に入賞するなどの成果も出している。牧水かるたは言語感覚を養うとともに、記録力・集中力を高める等、教育効果が高いので、今後も積極的に取り組みたい。 ○ 本年度も「学校だより」を毎月保護者・地域に配付することができた。ただ、ホームページの更新についてはあまりできなかった。今後とも意識的に情報発信をし、保護者・地域に協力と理解を求める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 敬老会の日に時間の空いている児童に毎年参加していただいているのですが、自分のおじいちゃん、おばあちゃんの名前を紹介してもらい、みんなで歌を披露してもらっています。ただ、消極的な気がします。気恥ずかしいのかなとは思っていますが、参加して場を盛り上げていることは確かです。感謝しています。 ○ 地域とふれあうことにより、人情味のある感性、豊かな心を養って欲しいと思います。 ○ 地域の文化を見、知ることは教育に大いに生かされることから、文化学習は必要と思う。 ○ 学校だよりは家庭・地域の連携に重要な役割があると思う。
14	学校は、ふるさとの歌人「若山牧水」をはじめとする文化に親しませるための適切な手立てをとり、働きかけを行っている。(短歌づくり、牧水かるたなど)	児 童 保護者 教職員	49 45 4	17 18 7	9 1 0	5 1 0	3.4 3.6 3.4			
15	学校は、教育目標や教育方針、学校の課題、必要な情報等を、PTA総会や学級懇談会、学校だより、ホームページ等を通して、分かりやすく発信している。	児 童 保護者 教職員	— 35 1	— 22 10	— 8 0	— 0 0	— 3.4 3.1			

5 小中一貫教育に関する学校評価(対象:教職員11名)

	評 価 項 目	平 均	A	B	C	D
1	中学校区で作成している「目指す児童生徒の姿」については、自校の教職員はすべて共通理解している。	2.7	3	3	4	1
2	中学校区で作成している「目指す児童生徒の姿」については、自校の家庭や地域もほぼ理解している。	2.4	1	5	3	2
3	中学校区で作成している「目指す児童生徒の姿を実現するために、小中学校で共通して実践している。	3.0	2	7	2	0
4	小中一貫教育の取組によって児童生徒は確実に変容し、「目指す児童生徒の姿」に近づいてきている。	2.6	1	5	5	0

6 校長所見

- 本年度掲げた4つの観点からの学校経営ビジョンについて、児童・保護者・教職員から評価をしてもらった。概ね3ポイント以上となり、一定の評価となった。一方で本年度から加えた「小中一貫教育に関する学校評価」については、教職員のみでの評価ではあるが、低い評価となり、今後の課題を感じた。本年度やや評価の低かった「いじめや差別のない温かい人間関係づくり」については、来年度以降十分に対応していくようにしたい。
- 評議委員の皆様からは、貴重なご意見ご示唆をいただき感謝している。特に、読書指導をより推進して欲しいというご希望が多く、来年度以降方向で取り組む内容の方向付けをしていただいた。また、最近話題となっている携帯電話スマートフォンなどの学校への持ち込みへの対応を今から学校として考えておくべきではないか、というご意見は、大変参考になった。市の教育委員会の指導の下進めていきたい。
- 本年度評価していただいたことを参考にしながら、来年度以降も、家庭・地域との連携しつつ、日々の教育活動を充実させるとともに、信頼される学校づくりに努めていきたい。